

（端裏書）

西三月從公儀御触出写、

今度松平周防守元領分石州濱田

松原浦ニ罷在候無宿八右衛門竹嶋^{江致}

渡海候一件吟味之上^右八右衛門其外夫々

嚴科^ニ被行候、右島往古^者伯州米子

之もの共渡海魚漁等致候といへとも

元 録^{（ヤヤ）} 之度朝鮮国へ御渡^ニ相成候、已来

渡海停止被仰出候場所^而有之、都

異国渡海之義ハ重き御制禁^ニ候条

向後右之島之儀ハ同様相心得渡海致

間敷候、勿論国々之廻船等海上おゐて

異国船不出会様乗筋等心懸可申旨

先年も相触候通弥相守、以来ハ可成

たけ遠冲乗不致様乗廻り可申候

右之趣御料^者御代官、私領^者

領主地頭より浦方村町共不洩様

可触知候、尤触書之趣板札^ニ相認高札

場等^ニ懸置可申もの也

二月

右之通可被相触候

從

公儀別紙之通御触^ニ候間

其旨相触可申候

右之通御触^ニ候間此段左様

御承知可被成候、已上

安本助右衛門

三月廿二日

別触中